

このコラムの22回で、嶋さんによる下平政一と彼が作成した豪華肉筆本についての紹介があった。

昨平成25年の末、開善寺の庫裏に、北一明という方の預かり荷物があった。20年余、手つかずであり、所蔵者に繋がる情報はないかと問い合わせがあった。下平政一から娘の和子

さんに辿りつき、結局、資料センターで処分することになり、下見したが、その折、庫裏の根太を沈ませて踞っている膨大な資料の中から、展覧会パンフレット

## 北一明こと下平昭一君の著書と資料

吉澤 健

トの一つをいただいで

きて、目を通し吃驚した。

荷物の預け主、下平政一の息子・北一明とは本名が下平昭一といい、あろうことか筆者の高校の同年生であった。面影は記憶にあったが、卒業後音信が途絶えており、パンフレットに記されていた

生メカニズムをつきとめて諸作を制作し、従来の焼き物の美を変え、理論と実作を試みたのだという。こうして作った諸作を丸善画廊・京王百貨店・根津美術館その他で展覧し、ニューヨーク・上海その他外国でも個展を開くまでにな

館・池田二十世紀美術

館・広島平和記念館は

じめ大英博物館・ボス

トン美術館・カナダ国

立ビクトリア美術館・

上海美術館などに収蔵

されているという。

さらに北は作品制作

に、ヒロシマの原爆を

浴びた土を使い、世界

平和の願いを込めて制

作しているということ

で、ノーベル平和賞に

推薦されたとの話もか

つて耳にしたことを思

い出したりした。

しかし、前述の曜変

天目発生のメカニズム

については、平成19年

6月17日の朝日新聞

「曜変の光に魅了され

―謎の制作方法 挑む

陶芸家たち」の特集記

事があり、5人の陶芸

家が紹介されていた

が、その中に北の名前

はみつからなかった。

北の著書『陶芸入門』

(昭和53年11月・鶴書

房)には「陶芸史上唯

一の謎とされていた

耀(北はこの字を使

っている)変の創造

に成功する」と記して

あるから、その秘密を

つきとめたと思うし、

作品図録には確かに曜

変天目と思われる諸作

も記載されているのだ

が…。

2トン車2台余にな

った北の膨大な荷物・

書物の中には、この他

に、『ある伝統美への

反逆』(三一書房)、

『新やきもの入門』(主

婦と生活社)他、各種

カレンダーなど北の著

作・制作になる資料も

あった。北は、平成24

年10月19日歿。行年78

歳であった。



北一明と、彼の著作

次の経歴によって、その後の活躍の様子を知った。

大学卒業後、陶芸の道に入り、独学を重ね、築窯して制作した。その後独自の研究により、曜変によって偶然出現するといわれており、発生が謎とされている「油滴点目」の発

った。中国上海で開いた「北一明〈創造美の世界〉展・特集」のパンフレットには美術評論家・詩人の宗左近や安藤次男、飯田出身の後藤総一郎の諸氏をはじめ、諸外国の研究家・大学教授らが賛辞を呈している。こうした北の作品は根津美術